

2025年度 鋼構造塑性設計小委員会 第2回 議事録

日時：2025年12月7日（日）14:00～18:00

場所：名古屋工業大学 304号室（ハイブリッド方式）

出席者：（網かけは欠席，下線はオンライン）

佐藤篤司（主査），五十嵐規矩夫，石原清孝，井戸田秀樹，岡崎太一郎，金尾伊織，
聲高裕治，平井慶一，向出静司，山西央朗，中野達也（記録）

資料：

- No.02_00 議事次第（佐藤）
- No.02_01 2024年度第4回議事要録案（中野）
- No.02_02 鋼構造塑性設計指針_刊行計画書（佐藤）
- No.02_03 構造本委員会査読への回答案および修正原稿案

議題

1. 前回議事録確認（資料 No.02_01）

- ・ 前回議事録（案）を確認し，承認された。

2. 改定講習会について（資料 No.02_02）

- ・ 東京会場は7/1（水）と7/28（火）を候補として，学会事務局と調整中である。
 - ✓ 溶接設計施工ガイドブックの改訂講習会は8/3（月）に予定されている。7/28に開催すると両者が近日になることを鋼構造運営委員会が懸念している。
- ・ 大阪会場は6月に開催する方針とする。近畿支部と調整する必要があるため，手順などを学会事務局に確認する。【佐藤主査】
- ・ 講習会のスケジュール（前は午前1時間，午後4時間，講師5名）を検討し，講師の人数なども学会事務局に確認する。【佐藤主査】

3. 鋼構造塑性指針第4版 構造本委員会の査読意見への対応について（資料 No.02_03）

- ・ 構造本委員会査読意見への回答案を章ごとに確認した。

3.1 図のデータ提出について【佐藤主査】

- ・ PDFファイルのみでよいか，あるいは元ファイルも提出する必要があるかを確認する。
- ・ 第3版に掲載されている図の元データの提供を，学会事務局から出版社に依頼してもらう。応じてもらえない場合は，旧版の図は提出せず，新旧の対応表でよいか確認する。
- ・ 新規の転載許可の方法などについても確認する。

3.2 英文の参考文献について

- ・ AIJ 構造系論文集の記載例に則ることとする。
- ・ SSRC, ECCS は, American Institute of Steel Construction (AISC) のように記載する。

3.3 第5版改定項目について

- ・ 鋼構造限界状態設計指針（主査：井戸田先生）に記載されている k_D 値（塑性変形による低減係数： D_s 値に相当）は、現在進行中の次期改定では付録に残す方針であるが、塑性設計指針に引き取って欲しい。
- ・ 有孔梁の耐力（鋼構造に関連する規準・指針類に記載が無いため）
- ・ 2章の図 C2.4.3 が過完全崩壊機構になっていることと、その説明。
- ・ 10章の例題1に記載されている(C10.3.34)～(C10.3.36)式は、ここより前の(C10.3.15)～(C10.3.29)式の付近に記載することを検討。

3.4 今後の日程について

- ・ 修正原稿および回答の提出 2025年12月19日（金）
- ・ 同上の査読委員への送付 2025年12月24日（水）← 送付方法を事務局に確認【佐藤主査】
- ・ 構造本委員会の査読が完了した後は、おおよそ6ヶ月で刊行できる。

4. 新任候補について

- ・ 本来であれば第5版の改定内容にもよるが、小委員会の世代交代を優先することとした。
- ・ 2026年4月1日付けの委嘱を目指して、次の2名に打診することとした。
 - 三井和也 先生（東京科学大学）
 - 稲益博行 先生（京都大学）
- ◆ 新任候補
 - ・ 板要素・梁（有孔梁・合成梁）：三井和也 先生（東京科学大学）
 - ・ 柱：佐藤公亮 先生（三重大学）
 - ・ ブレース：松井良太 先生（北海道大学）
 - ・ 接合部パネル：陳逸鴻 先生（長崎大学）
 - ・ 接合部・柱脚：浅田勇人 先生（芝浦工業大学）
 - ・ 接合部・柱脚・時刻歴：稲益 博行先生（京都大学）
 - ・ 設計例：運営委員会査読をご担当いただいた小野氏（日建設計）に
 - ・ 手を動かせる若手を推薦してもらう
 - ・ 非構造部材（二次部材）：石原直 先生（東京科学大学）←学会 PD で頭出し済み

5. 今後の予定

未定

以上